ふじ伊豆 トピックス
Fuji Izu Topics

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。
各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

農水副大臣に政策要望書提出

農産物の適正価格形成を求め農水副大臣を表敬訪問

JAと伊豆の国果菜委員会は6月12日、農林水産省で笹川博義副大臣を表敬訪問し、農産物の適正価格形成にかかる政策要望書を提出しました。同委員会生産者と梶毅組合長ら役職員が訪問しました。

農産物生産にかかるコストの高騰に販売価格が連動していないことが課題となる中、同委員会は4月に地元の勝俣孝明衆議院議員を招き、現地視察や意見交換を実施。農産物の適正価格形成に向けた法制化の協議における生産者の意見反映や、補助金制度新設などを要望しました。これを受けた勝俣議員の後押しにより、今回の訪問が実現しました。

笹川副大臣は「農産物のコスト指標の設定は非常に難しい課題であるが、生産者と消費者の双方が納得する指標の設定に向けて国で検討を進めている。生産者の声をしっかりと反映できるようにしたい」と応じ、同席した勝俣議員は「農産物が適正価格となるよう努めていきたい」と話しました。

笹川副大臣（左から4人目）に要望書を手渡す梶組合長（左から3人目）ら役職員、生産者

「伊豆の国ミニトマト」を試食する笹川副大臣（中央）

組合員の声を市町へ

地域農業振興に向け要望書を提出

JAは7月3日、裾野市の村田悠市長を表敬訪問し、令和8年度の農業振興対策や農業予算の拡充などを盛り込んだ政策要望書を提出しました。

要望書は、農家組合員や生産組織などとの意見交換会や生産現場から聞き取った課題・問題点をもとに作成。同市特産品の生産・販路拡大や補助金の継続などを求めました。8月上旬には沼津市・長泉町・清水町の首長に要望書を提出します。

村田市長（左）へ要望書を手渡す梶毅組合長（右）

食の安全・安心の意識向上へ

対象の生産者全戸を個別訪問

食の安全・安心に関する意識向上と食品に関する事故の未然防止を目的に、JAは本年度から生産者を個別訪問し、農薬の使用や保管状況、ほ場での栽培管理の確認を行っています。

6月9日には、御殿場地区の営農アドバイザーが「農薬使用・保管チェックシート」を用いて農薬庫の点検や生産者とのヒアリングを行いました。来年2月までに管内全域で対象の全戸を訪問予定です。

チェックシートを活用し、農薬管理を点検する生産者（左）と職員

田方農業高校へ農機寄贈

将来の農業を支える人材育成を支援

JA共済連静岡は6月25日、「JA共済 地域・農業活性化積立金」を活用して県立田方農業高校へ田植え機1台と耕運機1台を寄贈しました。贈呈式にはJA共済連静岡の中野重弘本部長や当JAの藤沼和明専務など役職員が参列しました。

式典後には生徒たちがほ場で試運転を行いました。今後、授業や実習で活用され、将来の農業を担う次世代の育成に役立てられます。

寄贈された田植え機を試運転する生徒

地域創生の一環で開発・商品化

ニューサマーオレンジのくずきりを限定販売

東伊豆町・河津町産のニューサマーオレンジを使った夏の和風スイーツ「ニューサマーオレンジくずきり」が6月25日から「フードストアあおき」などで、地域・数量限定で販売されました。

7月2日には髙木力常務ら役職員と関係者が両町を表敬訪問し、町長に商品をお披露目しました。今後も特産品の商品開発を進め、地域農業の魅力発信と持続可能な農業振興に努めていきます。

岸重宏河津町長（右）に商品を披露する髙木常務（中央）と関係者

「世界牛乳の日」に合わせ酪農応援

買い物客にノベルティ配布し牛乳消費促す

JAは牛乳消費による酪農応援を目的に、6月1日の「世界牛乳の日」に合わせ、みしまるかんなどファーマーズマーケット5店舗で、地元産牛乳の購入者に牛乳のレシピやノベルティを配布しました。

う宮～なでは富士宮酪農部会の生産者が来店客に牛乳200パック（200㎖入り）を無料配布。その他、各店舗でのぼり旗やポップを設置するなど工夫を凝らし、牛乳の消費を呼びかけました。

牛乳購入者の親子連れにノベルティを手渡す職員（右）

長泉ブランドの自販機が話題

公園利用者に地場産品をPR

3月にリニューアルした長泉町の鮎壺公園で、「あしたか牛カレー」などの長泉ブランド認定品を取り扱う自動販売機が話題となっています。

同公園はリニューアル後1カ月で2万人以上が来園。地場産品をPRする自販機を導入し、飲料など地元で人気の30品を販売しています。JAからはレトルトカレーや緑茶ボトル缶など3品を販売し、3カ月で合計約700個が購入され人気です。

レトルトカレーやスープ、飲料などを販売

猛暑に負けず高品質生産

富士地区梨部会が夏期せん定講習会

富士地区特産「富士梨」が8月から旬を迎えています。5月8日には同地区梨部会が部会員の園地で夏期せん定講習会を開催。部会員ら21人が参加し、摘果時期やせん定などについて学びました。

講師から、猛暑による梨の日焼け被害防止に、通常より枝を残し、葉を日よけ代わりにする暑さ対策のせん定方法を学びました。「富士梨」の高品質化を目指し栽培技術の向上に取り組んでいます。

講師（左）の説明を熱心に聞く部会員

原木シイタケ栽培の魅力発信

PR動画制作し新規就農者の確保へ

原木シイタケの新規就農者確保に向け、しいたけ委員会の若手生産者7人とJAが協力してPR動画を制作しました。高知県から移住し就農した野本達彦さんのインタビューを中心に、作業風景などを4分弱にまとめ、栽培の魅力を発信しています。

動画は当JA公式YouTubeで公開しています。今後は就農募集のツールとして活用し、シリーズ化も検討していきます。

完成した動画を確認する若手生産者と職員

畑ワサビを伊東市の特産に

質・量ともに昨年を上回る出来

あいら伊豆蔬菜部会は畑ワサビの産地化に向け、令和5年から伊豆の国地区の栽培技術を学びながら伊東市で試験栽培に取り組んでいます。

今期は生産者が7人増え12人が生産。病害虫対策や管理を徹底したことで質・量ともに昨年を上回る出来となり、今期は4月28日に初出荷を迎え、6月末までに約2トンを出荷しました。今後も生産者数や生産量を増やし、産地化を目指します。

畑ワサビの出来を職員（左）と確認する部会員

芝を育成し草刈り作業軽減へ

「センチピードグラス」導入で労力低減

御殿場地区営農課は、水田の畦畔やのり面の草刈り作業の労力低減を目指し、雑草抑制効果のある芝の一種「センチピードグラス」の導入を進めています。

6月9日、10日には水稲生産者12人の畦畔約1ヘクタールに、施工会社の（有）だるま製紙所と共にセンチピードグラスの種子の吹き付け処理を実施。随時、施工会社と生育確認を行っていきます。

種子は施工会社独自の活着剤と混ぜて吹き付け

イチゴリキュールの完成報告

完熟冷凍イチゴの需要創出で農業所得向上へ

地元老舗蔵元の富士錦酒造と富士宮苺部会、JAは5月23日、富士宮市の須藤秀忠市長を表敬訪問し、三者が連携して開発した、富士宮産「きらぴ香」の完熟冷凍イチゴのリキュール「ぴ香ぴ香」の完成を報告しました。

須藤市長は「土産にも最適な商品。富士宮の新たな特産としてPRできる」と話しました。同商品は「う宮～な」で販売中です。

「ぴ香ぴ香」の完成を喜ぶ須藤市長（中央）と関係者

地域農業の維持・発展へ

賀茂営農技術員会で情報交換

賀茂営農技術員会が6月6日に開かれ、JA職員や農林事務所の担当者ら27人が参加しました。

同会は技術指導の円滑化や相互の知識向上を目的に年3回開催。JAからは営農指導事業の説明や営農アドバイザーの取り組みを報告しました。その後、生産部門ごとに分かれて地域農業が抱える課題や改善策について意見交換と情報共有を行い、連携強化を図りました。

生産部門ごとに課題解決に向けて意見交換

三島馬鈴薯の安定出荷・販売へ

販売対策会議を開く

三島函南地区営農販売課は6月10日に同地区本部で三島馬鈴薯販売対策会議を開き、生産者や市場関係者、JA職員ら13人が出席しました。

市場関係者から産地の情勢や現況の報告を受け、本年度の販売に対する戦略を協議しました。量販店だけでなく、ギフトや通販サイト、コンビニエンスストアでの販路拡大についても協議し、ブランド戦略強化の方針を決定しました。

今後の販売方針を協議